

1 調査方針

1.1 調査目的

本調査は、近畿地方整備局の委託により、大阪港における国際競争力強化に向けた14,000TEU級の大型コンテナ船受入れに伴う航行船舶への影響について、委員会を設置して調査検討を行うことを目的とした。

なお、調査検討の対象は、-15m以深のコンテナバースへの14,000TEU級大型コンテナ船の寄港とした。

1.2 調査の背景

阪神港は、平成22年8月に「国際コンテナ戦略港湾」として国の指定を受けた。

国際コンテナ戦略港湾の指定は、大型化が進むコンテナ船に対応し、アジア主要国と遜色のないコスト・サービスの実現を目指すため、「選択」と「集中」に基づいた国際コンテナ戦略港湾の選定を行うとの政策に基づくもので、阪神港と京浜港の2港が指定を受けているものである。

国際コンテナ戦略港湾の指定を受け、広域からの貨物集約等による「集貨」、戦略港湾背後への産業集積による「創貨」、大水深コンテナターミナルの機能強化や港湾運営会社に対する国の出資制度の創設等による「競争力強化」が進められているところである。

一方、国際的なコンテナ船大型化の動きも活発であり、大手船社では20,000TEU級の大型コンテナ船の就役が進められている状況にあり、これに伴って、すでに就航している14,000TEU級の大型コンテナ船の我が国への配船も想定される状況にある。

このため、整備を進めつつある現状の港湾施設においても、14,000TEU級大型コンテナ船を受け入れることについて、あらかじめ検討を行い、阪神港の国際コンテナ戦略港湾としての安全かつ効率的な運用の継続を図ることが必要となっているものである。

1.3 調査名

「大阪港における船舶の航行安全検討調査」とした。

1.4 調査方法

1.4.1 委員会等の設置

- (1) 学識経験者、海事関係者、港湾関係者及び関係官公庁職員等からなる「大阪港における船舶の航行安全検討調査委員会」を設置し、検討資料に基づき検討した。

なお、操船シミュレータ実験に関する技術的、実務的な内容にわたる事項に関しては、上記委員会の下に少数の委員等からなる「大阪港における船舶の航行安全検討調査意見聴取会」を設置して検討し、検討結果を委員会に報告した。

- (2) 検討資料は、委託者である近畿地方整備局から提供を受けた資料を基に、公益社団法人神戸海難防止研究会（以下、「海防研」という。）が専門的立場から検討し、必

< 阪神港における船舶の航行安全検討業務（大阪港） >

要に応じ海防研常任調査研究委員等の参画を得て作成した。

1.4.2 委員会等の構成

委員会の構成は、以下のとおりとした。

順不同 敬称略 ※海防研常任委員

委 員	岩 瀬 潔	海技大学校名誉教授 ※
〃	藤 本 昌 志	神戸大学大学院海事科学研究科准教授 ※
〃	片 岡 徹	大阪湾水先区水先人会会長 ※
〃	松 岡 耕太郎	(一社) 日本船長協会技術顧問 ※
〃	松 浦 寛	日本郵船(株)関西支店支店長代理 ※
〃	宮 田 浩	(株)商船三井海上安全全部プロジェクトリーダー ※
〃	植 田 博	川崎汽船(株)関西支店副支店長 ※
〃	田 渕 訓 生	全国内航タンカー海運組合関西支部長
〃	國 友 雄 二	近畿旅客船協会安全対策委員
〃	武 田 正 之	(公社) 関西小型船安全協会会長
〃	中 原 敏 之	大阪海運組合理事長
〃	袋 本 浩	大阪船主会副会長
〃	寄 神 裕 佑	日本押船土運船協会会長
〃	白 野 哲 也	大阪フェリー協会専務理事
〃	浦 隆 幸	全日本海員組合大阪支部長
		以上 15 名
関係官公庁	伊 藤 卓 郎	第五管区海上保安本部交通部長
〃	中 村 明	大阪海上保安監部長
〃	藪 内 弘	大阪市港湾局長
〃	杉 中 洋 一	近畿地方整備局港湾空港部長
		以上 4 名
オブザーバー	阪神国際港湾(株)	
委 託 者	近畿地方整備局	
事 務 局	公益社団法人 神戸海難防止研究会	

< 阪神港における船舶の航行安全検討業務（大阪港） >

意見聴取会の構成は、以下のとおりとした。

順不同 敬称略 ※海防研常任委員

委員	藤本昌志	神戸大学大学院海事科学研究科准教授 ※
〃	岩瀬潔	海技大学校名誉教授 ※
〃	片岡徹	大阪湾水先区水先人会会長 ※
〃	松岡耕太郎	(一社)日本船長協会技術顧問 ※
〃	松浦寛	日本郵船(株)関西支店支店長代理 ※
〃	宮田浩	(株)商船三井海上安全部プロジェクトリーダー ※
〃	植田博	川崎汽船(株)関西支店副支店長 ※
		以上 7名
関係官公庁	伊藤卓郎	第五管区海上保安本部交通部長
〃	中村明	大阪海上保安監部長
〃	藪内弘	大阪市港湾局長
〃	杉中洋一	近畿地方整備局港湾空港部長
		以上 4名
オブザーバー	阪神国際港湾(株)	
委託者	近畿地方整備局	
事務局	公益社団法人 神戸海難防止研究会	

1.5 調査検討項目等

1.5.1 調査検討項目

- (1) 対象船舶の大阪港夢洲コンテナターミナルに至る現状水深における主航路航行時の安全性及び安全対策
- (2) 対象船舶の夢洲コンテナターミナルへの入出港に係る安全性及び安全対策

1.5.2 調査条件

- (1) 調査期間は、平成30年5月31日から平成31年3月25日までとした。
- (2) 委員会等の開催については、原則として委員会2回及び意見聴取会2回とした。

1.5.3 安全性の検証

安全性の検証では、ビジュアル操船シミュレータ実験を行った。

1.6 委員会等の検討項目

検討項目は、原則として下記のとおりとし、検討に伴い必要があれば変更することができるものとした。

- (1) 第1回委員会
 - ① 調査方針
 - ② 大阪港の航行環境等
 - ③ 対象船舶及び対象岸壁の概要
 - ④ ビジュアル操船シミュレータ実験（現状主航路）実施方針
- (2) 第1回意見聴取会
ビジュアル操船シミュレータ実験（現状主航路）実施方案
- (3) ビジュアル操船シミュレータ実験（現状主航路）の実施
- (4) 第2回意見聴取会
 - ① ビジュアル操船シミュレータ実験（現状主航路）実施結果
 - ② 主航路航行時及び着離岸時の安全性
 - ③ 主航路航行時及び着離岸時の航行安全対策（粗案）
- (5) 第2回委員会
 - ① ビジュアル操船シミュレータ実験（現状主航路）実施結果
 - ② 主航路航行時及び着離岸時の安全性
 - ③ 主航路航行時及び着離岸時の航行安全対策
 - ④ 報告書構成

1.7 調査の流れ

調査の流れは、図 1.7.1 の調査フロー図のとおり。

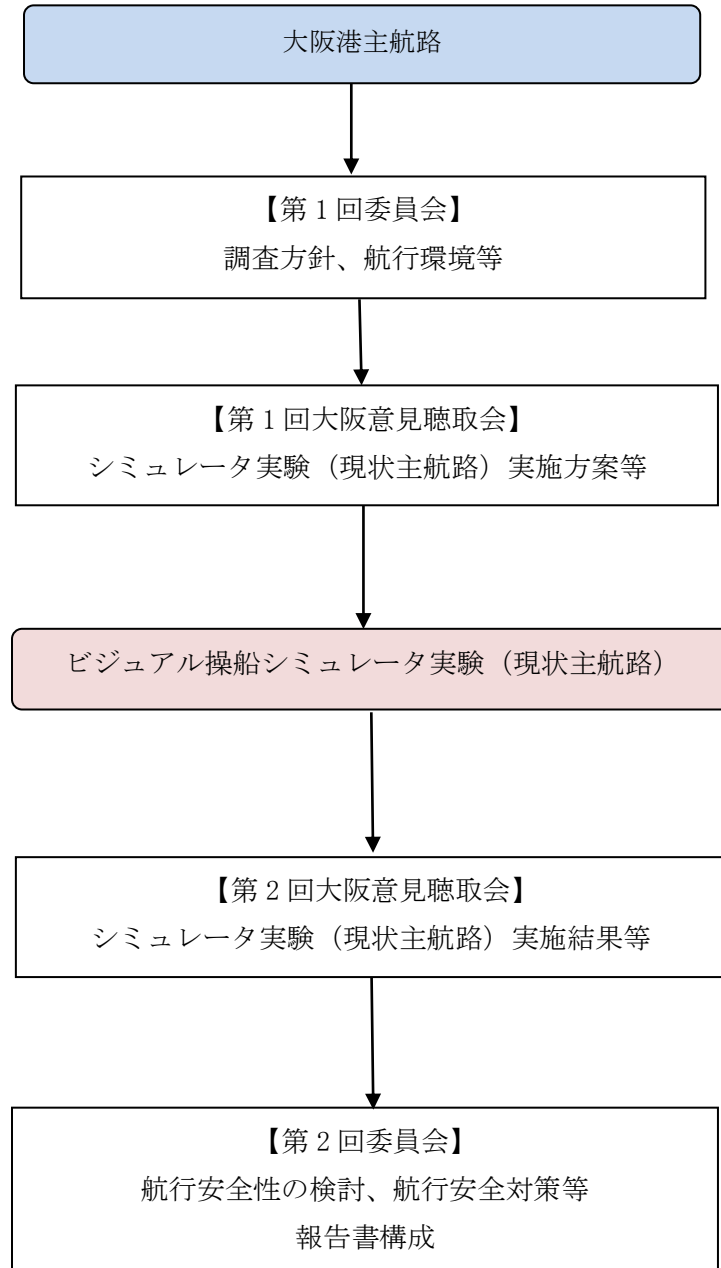


図 1.7.1 調査フロー図

1.8 委員会等の開催状況

1.8.1 第1回委員会

- 1 日 時 平成30年7月10日（火）13:30～15:35
- 2 場 所 ラッセホール
- 3 出席者 学識者、海運実務者、関係官公庁、委託者、事務局
- 4 議 題
 - (1) 調査方針について
 - (2) 大阪港の航行環境等について
 - (3) 対象船舶及び対象岸壁の概要について
 - (4) ビジュアル操船シミュレータ実験実施方針（現状水深）について
- 5 資 料
資料
 - (1) 検討資料委1-1 調査方針（案）
 - (2) 検討資料委1-2 大阪港の航行環境等（案）
 - (3) 検討資料委1-3 対象船舶及び対象岸壁の概要（案）
 - (4) 検討資料委1-4 ビジュアル操船シミュレータ実験実施方針（案）席上配布資料
検討資料委1-3 全部差し替え

1.8.2 第1回意見聴取会

- 1 日 時 平成30年7月19日（木）13:20～14:30
- 2 場 所 ラッセホール
- 3 出席者 学識者、海運実務者、関係官公庁、委託者、事務局
- 4 議 題
 - (1) 対象船舶及び対象岸壁の概要について
 - (2) ビジュアル操船シミュレータ実験実施方針（現状水深）について
- 5 資 料
席上配布資料
 - (1) 検討資料意1-1 対象船舶及び対象岸壁の概要（案）
 - (2) 検討資料意1-2 ビジュアル操船シミュレータ実験実施方針（現状水深）（案）

1.8.3 ビジュアル操船シミュレータ実験（現状主航路）

- 1 日 時 平成30年8月21日（火）08:30～17:40
- 2 場 所 神戸海事センター（神戸市）
- 3 出席者 巻末出席者名簿のとおり
- 4 資 料

< 阪神港における船舶の航行安全検討業務（大阪港） >

席上配布資料

- (1) 検討資料委 1-2 大阪港の航行環境等（修正版）
- (2) 検討資料意 1-1 対象船舶及び対象岸壁の概要（修正版）
- (3) ビジュアル操船シミュレータ実験実施要領
- (4) 評価シート

1.8.4 第 2 回意見聴取会

- 1 日 時 平成 30 年 10 月 16 日（火） 13：30～15：50
- 2 場 所 ラッセホール
- 3 出席者 巻末出席者名簿のとおり
- 4 議 題
 - (1) 対象船舶及び対象岸壁の概要について
 - (2) ビジュアル操船シミュレータ実験実施結果（現状水深）について
 - (3) 安全性の検討（現状水深）について
 - (4) 航行安全対策（現状水深）（粗案）について

5 資 料

席上配布資料

- (1) 検討資料意 2-1 対象船舶及び対象岸壁の概要（案）
- (2) 検討資料意 2-2 ビジュアル操船シミュレータ実験実施結果（現状水深）（案）
- (3) 検討資料意 2-3 安全性の検討（現状水深）（案）
- (4) 検討資料意 2-4 航行安全対策（現状水深）（粗案）（案）

1.8.5 第 2 回委員会

- 1 日 時 平成 30 年 11 月 6 日（火） 13：30～16：05
- 2 場 所 神戸メリケンパークオリエンタルホテル
- 3 出席者 学識者、海運実務者、関係官公庁、委託者、事務局
- 4 議 題
 - (1) 調査方針変更について
 - (2) 第 1 回委員会議事概要について
 - (3) 意見聴取会報告について
 - (4) 対象船舶及び対象岸壁の概要について
 - (5) ビジュアル操船シミュレータ実験実施結果（現状水深）について
 - (6) 安全性の検討（現状水深）について
 - (7) 航行安全対策（現状水深）について
 - (8) 報告書構成について

5 資 料

資料

- (1) 第 1 回委員会議事概要（案）
- (2) 検討資料委 2-1 調査方針変更（案）
- (3) 検討資料委 2-2 対象船舶及び対象岸壁の概要（案）

< 阪神港における船舶の航行安全検討業務（大阪港） >

- (4) 検討資料委 2-3 ビジュアル操船シミュレータ実験実施結果（現状水深）（案）
- (5) 検討資料委 2-4 安全性の検討（現状水深）（案）
- (6) 検討資料委 2-5 航行安全対策（現状水深）（案）
- (7) 検討資料委 2-6 報告書構成（案）

1.8.6 審議結果

委員会で発言された指摘、意見を盛り込んで修正することを前提に検討資料が了承された。